

2025

SUPER FORMULA LIGHTS
RACE REPORT

Rd.1-2-3	SUZUKA CIRCUIT	》》》》》》》》	MAR 08-09
Rd.4-5-6	AUTOPOLIS	》》》》》》》》	MAY 17-18
Rd.7-8-9	OKAYAMA	》》》》》》》》	JUN 21-22
Rd.10-11-12	Sportsland SUGO	》》》》》》》》	AUG 30-31
Rd.13-14-15	FUJI SPEEDWAY	》》》》》》》》	SEP 06-07
Rd.16-17-18	MOBILITY RESORT MOTEGI	》》》》》》》》	NOV 29-30

S U P E R F O R M U L A L I G H T S



TOM'S

Rd.4-5 AUTOPOLIS 5.17^[sat] - 18^[sun]

circuit オートポリス (大分県日田市)

weather **sat** 雨 **sun** 曇りspectators 13,800 人 (**sat** 5,000 人 + **sun** 8,800 人)

2025年全日本スーパーフォーミュラ・ライツ選手権のRound4・5が5月17日(土)・5月18日(日)にオートポリスで行われた。17日(土)に予定されていた公式予選が天候不良の影響でキャンセルされ、Round6の延期が決定するなどスケジュール変更が多い週末となったなか、#35 佐野雄城がRound4で優勝を果たし、Round5でも2位に入る活躍をみせた。また今大会がデビュー戦となった#36 エステバン・マッソンはRound4で3位表彰台。#37 古谷悠河もRound5で3位に入った。#38 小林利徠斗は歯車が噛み合わずRound5の4位が最上位となった。

モビリティ中京 TOM'S TGR-DC SFL

35

YUKI SANO

Driver 佐野 雄城

Rd.4	
予選	2 位
決勝	1 位

Rd.5	
予選	5 位
決勝	2 位

Rd.6	
延期	

	Rd.4	Rd.5
予選タイム	P2/1'38.292 ※ FP5のベストタイム	P5/1'38.673 ※ FP5のセカンドタイム
決勝ベストタイム	P1/1'40.160 Fastest Lap	P2/1'40.432

PONOS Racing TOM'S TGR-DC SFL

36

ESTEBAN MASSON

Driver エステバン・マッソン

Rd.4	
予選	4 位
決勝	3 位

Rd.5	
予選	6 位
決勝	5 位

Rd.6	
延期	

	Rd.4	Rd.5
予選タイム	P4/1'38.375 ※ FP5のベストタイム	P6/1'38.687 ※ FP5のセカンドタイム
ベストタイム	P3/1'40.820	P5/1'41.197

Deloitte. HTP TOM'S 320

37

YUGA FURUTANI

Driver 古谷 悠河

Rd.4	
予選	5 位
決勝	4 位

Rd.5	
予選	4 位
決勝	3 位

Rd.6	
延期	

	Rd.4	Rd.5
予選タイム	P5/1'38.377 ※ FP5のベストタイム	P4/1'38.628 ※ FP5のセカンドタイム
決勝ベストタイム	P4/1'41.309	P3/1'40.546

モビリティ中京 TOM'S TGR-DC SFL

38

RIKUTO KOBAYASHI

Driver 小林 利徠斗

Rd.4	
予選	6 位
決勝	6 位

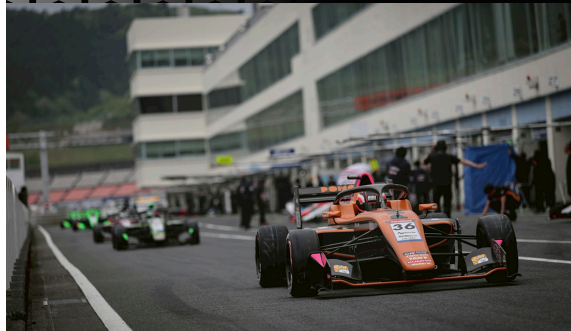
Rd.5	
予選	2 位
決勝	4 位

Rd.6	
延期	

	Rd.4	Rd.5
予選タイム	P6/1'38.496 ※ FP5のベストタイム	P2/1'38.519 ※ FP5のセカンドタイム
決勝ベストタイム	P6/1'41.238	P4/1'40.352

天候：雨／気温：15℃／路面温度：16℃

QUALIFYING



天候不良により予選がキャンセル。 金曜日の専有走行 5 回目の記録で、 Round4・5 のグリッドが決定。

今シーズン 2 大会目の舞台は、九州・大分県にあるオートポリス。標高約 800m のところにあり、高低差が大きい特徴があることで知られている。鈴鹿での開幕大会で 3 連勝を飾った TOM'S は、さらに勢いをつけるために、事前にテスト走行を実施。特に 37 号車に起きていた直線スピードの問題解決など、様々な手応えを感じ、今大会を迎えた。またシーズンオフのテスト中にクラッシュを喫し、開幕大会を欠場していたマッソンが、今大会から復帰。木曜日と金曜日に行われた練習走行でも積極的に走り込み、マシンとコースの理解を進めた。

本来なら、17 日（土）に公式予選が行われる予定だったが、朝から強い雨と濃い霧に見舞われた影響で中止となり、前日の午後に行われた専有走行 5 回目のベストタイム順で Round4 のグリッドが決定。佐野が 2 番手で最前列を確保し、4 番手以降はマッソン、古谷、小林が続いた。



35

チームと協力して、トップとの差を縮めることができました。

ドライバー 佐野 雄城

走行初日の時点で、あまり調子が良いという感じではなかったなか、そこから金曜日最後の走行でのベストラップが 2 番手だったことを考えると、すごく進歩できたと思います。ライバルチームとの差を縮められたのも良かったです。



36

順位を追いかけるのも重要だが、1つ1つ経験して学んでいきたい。

ドライバー エステバン・マッソン

まずは数ヶ月ぶりにスーパーフォーミュラ・ライツのcockpitに戻ってくることができて嬉しい。今回も練習走行でたくさん走って、さまざまな学びがあった。僕にとっては初めての日本でのレースだから、ひとつずつ経験して学んでいくことを重要視したい。



37

コンディションの変化にバランスを合わせるのが難しかった。

ドライバー 古谷 悠河

鈴鹿大会でストレートスピードが上がらないトラブルがありましたが、それが今回は直って普通に走れるようになったので、そこが一番の収穫でした。今週末はコンディションが目まぐるしく変わるなかでバランスを合わせきれなかったです。



38

走るたびに調子が変わって、なかなか定まらなかったです。

ドライバー 小林 利侑斗

今週はピットから出るたびに調子が変わって、良い時もあれば悪い時もある状況でした。自分がどれくらいの位置で走れているのかが分からないまま金曜日を迎えましたが、そこでも速いときと遅いときがありました。その原因をしっかりと突き止めたいです。



チーム監督 山田 淳

事前にテスト走行できた成果ができました。

我々は通常、オフィシャルテスト以外は走らないのですが、オートポリスでの成績向上のために事前にテストを実施しました。その効果が大きく出ていたと実感した木曜・金曜の走行で、特に古谷選手のマシンパフォーマンスの改善が確認できました。

Rd.4 天候：曇り／気温：17℃／路面温度：18℃ Rd.5 天候：曇り／気温：17℃／路面温度：20℃

RACE



好スタートを決めた佐野が Round4で優勝。 マッソンもデビュー戦で3位に入る。 Round5では古谷が今季初表彰台。

18日(日)は天候が回復し、8時30分からのRound4(21周)では各車がスリックタイヤを装着してレースに臨んだ。スタートでは佐野が2番グリッドから好ダッシュを決めてトップに浮上すると、そのまま後続を引き離す快走を披露。最終的に13.3秒もの大量リードを築いて、開幕4連勝を飾るトップチェッカーを受けた。4番グリッドのマッソンはライバルと終始3番手争いを展開。オーバーテイクはできなかったが、そのライバルにタイムペナルティが課されたことで繰り上がり、3位表彰台を獲得した。古谷も順位を上げて4位、小林は6位となった。

12時15分から行われたRound5(14周)では、小林が2番グリッドからスタートするもライバルの先行を許して4番手に後退。逆に5番グリッドの佐野が混乱の隙をついて2番手に上がり、そのまま順位を守ってフィニッシュした。古谷も序盤から力強い走りをみせ、3位に入り今季初表彰台を達成。小林は悔しい4位に終わった。6番グリッドのマッソンは順位を1つ上げて5位でチェッカーを受けた。なお、スケジュールの都合により開催が叶わなかったRound6は、次大会以降に延期されることとなった。

35



2レース目も表彰台に乗って
良い形でオートボリス大会を
終えられました。

ドライバー 佐野 雄城

2レースともスタートで順位を上げられましたし、2レース目に関しては中古タイヤだったので、それを考えれば2位という結果は良かったと思います。次の岡山大会の前にもテストがあるので、その機会をうまく活用して良いレースウィークにしたいです。

36



今大会でたくさんの発見があった。
この学びを次に活かしたい。

ドライバー エステバン・マッソン

初めての経験ばかりだったけど、その中で新たな発見も多かった。さらに1レース目では表彰台に上がることができたことは本当に嬉しく思う。もちろん、勝つためにここに来ているから、次戦ではもっと上を目指していきたい。

37



スタートが課題なので、
次戦に向けて改善したいです。

ドライバー 古谷 悠河

Round4はペースは悪くなかったので、スタートがうまく決まっていれば3位も狙えたかもしれません。Round5では順位を上げられましたが、ここでもスタートでホイールスピンが多かったので、次戦以降は見直していきたいです。

38



Round5にかけていたので、
スタートでの失敗は情けないです。

ドライバー 小林 利徳斗

Round5が2番手からのスタートだったので新品タイヤを履きました。他の選手よりタイヤの状況は良かったのですが、スタートで失敗して後ろに下がりました。前に出られればペースは良かったかもしれませんが、タイヤのいいところを活かせないままレースが終わりました。



チーム監督 山田 淳

今大会も佐野選手が輝いていたと思います。

佐野は2戦ともスタートでしっかりと前に出たのが印象的でした。夏場のレースでも速さを維持してほしいと思います。エステバンもデビュー戦ながら決勝では良いペースを発揮してくれたので、これから日本のレースを学んで成長してほしいです。

TOM'S



Deloitte. **PONOS** **トヨタモビリティ中京** **KUO GROUP**



坪井工業



損保ジャパン

東京アーバンコンサルティング

HIROSHIMA TOYOPET TECHNICA

HTP Racing

バンテリン

アエトキョシ

LAC

トヨタカローラ静岡

EDIFICE CASIO

S&D TAMA GROUP

GR TOYOTA GAZOO racing

TGR-DC TGR Driver Challenge Program

TGR-D

ART

MOTUL

ENKEI

ThreeBond

PFC

KUMHO